C2-1

オンライン大学院における公開科目提供事例

A Case of Open Course Provision from an Online Graduate School

鈴木 克明・根本 淳子・烏中 啓子・高橋 暁子・吉田 あきえ
Katsuaki SUZUKI, Junko NEMOTO, Keiko UNAKA,
Akiko TAKAHASHI, Akie YOSHIDA

熊本大学大学院教授システム学専攻
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

要約: 本発表では、著者らが所属しているオンライン大学院において公開科目を提供した事例について報告する。公開している科目は現在3科目であり、提供の趣旨が異なる。提供科目のうち2科目については英語バージョンもあわせて公開中であり、残りの1科目も英語での公開を予定している。提供の趣旨が広報・事前学習・公開保存にあったことなどについて述べる。

キーワード： オンライン大学院、公開科目、OER、広報、事前学習、公開保存

１．はじめに

教育資源のオープン化が叫ばれている今日、組織的な営みとして様々な取り組みがある[1]。本発表者の属する熊本大学では、今年度に日本オープンコースウェア・コンソーシアム（JOCW）[2]に加盟した。本発表では、インターネット上ですべての教育活動が行われているオンライン大学院の特性を生かして、教育資源のオープン化への試みとして開始した「公開科目」[3]について報告する。

２．「公開科目」開設の経緯

熊本大学大学院に2006年4月に設置された教授システム学専攻は、「eラーニングの専門家をeラーニングで養成する」を旗印とした完全オンライン大学院である[4]。修士課程設置の2年後の2008年4月には同様の形式で博士後期課程を設置し、2011年3月に最初の博士号を授与し完成形となった。その間、2007年度には文科省大学院教育改革支援プログラムに選定され、設立当初から取り組んできた大学院教育の実質化をさらに一歩進める改革を行ってきた[5]。また、2007年からは国際協力機構（JICA）との提携で途上国からの留学生受け入れを開始し、そのために必要な科目の英語化が行われた。そんな中で、「公開科目」の開設は2008年度に着手され、最初の科目「特別研究I」が2009年4月に日英両ヶ国語で公開された。その後、2007年7月には「基盤的教育論」が日英両ヶ国語で、また2011年4月には、「eラーニング概論」が日本語のみ先行公開された。現在、「eラーニング概論」の英語版と「基盤的情報処理論」が公開準備中であり、順次公開科目を拡大していく予定となっている。

３．「公開科目」提供の実態

図1に最初に提供された公開科目「特別研究I」の日本語版のトップページを示す。大学院の学習環境としては市販の学習管理システム（LMS）を用いているが、それと同等の機能をWebページとして再現した形で、特定年度の学習環境をすべて提供している（ただし、掲示板への書き込みについては特定スレッド1つのみを公開し、プライバシーに配慮して匿名を使用）。

実際の学習環境と同様に、トップページには科目担当者、学習目標、内容構成、テキスト、課題と点数配分などのシラバス情報が記載され、そこからリンクをたどっていくことで各回への学習環境が展開する。各回においては、学習資料の提供、確認クイズや掲示板などの情報交換、提出課題についての指示など、実際の学習環境がほぼ完全に再現されている。見本となる1スレッドのみが公開されている掲示板の代替として、公開科目閲覧者用のSNSの

図１　公開科目「特別研究Ⅰ」トップページ

利用が検討されたが、現時点ではそれはアクティブになっていない。よって、公開科目は、学習資源として、閲覧のみに供されている。

４.「公開科目」提供の意図

公開科目として最初に「特別研究 I」を提供した理由は、入学希望者への広報であった。当該科目が修士論文執筆に向けて研究方法を学ぶ第一歩の科目として位置づけられているものであり、２ブロックに本専攻教員がオムニバス形式で「もし自分が修士論文を指導する場合はどんなテーマでどんな研究になるか」について紹介しているため、広報には好都合であった。専攻についての広報用の Web サイトには、教員の略歴や担当科目、あるいはメッセージなどが掲載されているが、実際の研究指導をそこから想像するのは容易ではない。「特別研究Ⅰ」を公開して、より詳細に本専攻で取り組むことが可能なことは何かを周知する（願わくば、それで出願を志してもらう）意図があった。

第二の公開科目「基盤的教育論」の公開には、広報目的に、入門的科目の事前学習を促進する目的が加えられた。本専攻は教育学分野または IT 分野を既に履修してきた者を対象にカリキュラムが構成されている。その不足分を補う科目として学部レベルの基礎を扱う科目として２つの「基盤的〇〇論」が置かれている（2008 年度入学生から自由科目扱い）。本来であれば、このレベルの学習は入学前に済ませていて欲しい、という願いから、本科目を公開することとした。もうひとつの基礎科目である「基盤的情報処理論」の公開（準備中）により、この意図は完結することになる。

第三の公開科目「e ラーニング概論」は、科目内容の大幅見直しによりいわば「廃棄処分」となった旧科目を学習資源として公開保存する目的で提供された。当該科目は、筆頭発表者が本大学院設立に向けて準備した思い入れのこもった科目であり、「e ラーニング概論という名を借りた教育設計学啓蒙科目」として各方面に少なからぬ影響を与えてきたと自負しているものである[(6)]。しかしながら、時代の要請とともに大幅見直しが必須となり、2010 年度から新科目「e ラーニング概論」の開始とともに使われなくなった。それを期に、永久保存版として後世に残すべく公開したものである。

５．おわりに

本発表では、オンライン大学院において３つの科目を異なる意図で公開した事例について述べた。オンライン大学・大学院は、日常の教育活動がもともと公開可能な形で行われているため、わざわざ余分な手をかけて公開への準備をするまでもなく、すでに教育資源の公開が可能な状態にある。今回の公開にあたっては、LMS 上のコンテンツを通常の Web サイトに変換する手間がかかったが第二著者の指揮の下、共著者がその作業にあたった。公開するか否かに関わらず、著作権処理などは既に行われており、公開準備過程では、とくに難しい問題には遭遇しなかったと言って良い。また、特定スレッドの公開により、学習のプロセスをも再現できる可能性も示唆された。

参考文献

(1) Iiyoshi, T. & Kumar, M. S. V.（2008）*Opening up education.* MIT Press.
(2) http://www.jocw.jp/
(3) http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/opencourses/
(4) 大森不二雄（編著）（2008）『ＩＴ時代の教育プロ養成戦略：日本初のｅラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂
(5) http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/gp/
(6) 鈴木克明・根本淳子・市川尚・三石大・波多野和彦・小松秀圀(2006)「ＩＤ専門家養成のためのブレンド型ｅラーニングの実践」『教育システム情報学会誌』23(2)、59-7